

佐倉“江戸”時代まつり 補強案

A案:佐倉・江戸「藩主とその時代」まつり

ターゲット	1.郷土の歴史に興味のある市民 2.歴史好きな周辺住民 3.イベントを楽しみたい若い世代の市民、周辺住民
コンセプト	江戸時代の佐倉を「知る」、「楽しむ」そして誇り(あこがれ)を育てるイベント
目的	「老中の藩」と呼ばれた佐倉藩の歴史を、日本史との関係性をからめ多角的に紹介し、イベント参加者にたのしく「佐倉の歴史」を知っていただく。
目標	◆佐倉市住民: →誇りと愛情(住んでよかった) ◆その他イベント参加者: →あこがれ(こんな市に住みたい) ※ロールモデルは鎌倉市

イベント概要

佐倉藩の「藩主とその時代」をフィーチャーし、知的好奇心とエンターテインメントの二つの切り口で演出する。

◆焦点をあてるテーマを毎年変更◆
「土井利勝と江戸幕府開府」、「稲葉正往と赤穂浪士の時代」、「堀田正睦と開国」etc

知的好奇心Line

- 「土井利勝と江戸幕府開府」などテーマに沿った関連文化財を集めて佐倉美術館に展示
- 研究者による講演
※佐倉祭囃子、立身流演武は存続

Entertainment Line

- 姫を選び、街中を散策(or行列)
- テーマにあわせた仮装(市)、コスプレ(来場者)による撮影会をお祭り広場で開催
※着物特典(撮影も有)、大道芸、落語等は存続

佐倉“江戸”時代まつり 補強案

B案: 古今佐倉真佐子編“江戸時代・麻賀多神社の祭礼”の復元

ターゲット	1.郷土の歴史に興味のある市民 2.歴史好きな周辺住民 3.イベントを楽しみたい若い世代の市民、周辺住民
コンセプト	江戸時代の佐倉を「知る」、「楽しむ」そして誇り(あこがれ)を育てるイベント
目的	佐倉市の無形文化財である「佐倉麻賀多神社の祭礼」の原型を復元し、市民参加型のイベントとすることで、歴史的な文化財を軸に市民に一体感と誇りを醸成する。
目標	◆佐倉市住民: →誇りと愛情(住んでよかった) ◆その他イベント参加者: →あこがれ(こんな市に住みたい) ※ロールモデルは鎌倉市

イベント概要

江戸時代に江戸で使用されていた山車、山車人形を豊富に保持する「唯一の市」である佐倉市。その祭りの原型が、「古今佐倉真佐子」という古文書に克明に残されている。1700年代に行われていた佐倉藩の「ねり祭り」を、古文書の記述を基に再現し、同時にエンターテインメントの要素も演出する。

知的な好奇心Line

- 新町に掲出されていた幟(のぼり)、鉾(一部現存)、山車、行列を再現
- 祭礼ではなく「復元」なので、神輿の渡御(展示)は麻賀多神社神主に相談

Entertainment Line

- あくまで文化の復元なので、市民から行列参加などを募り、佐倉の祭礼を深く知っていただく機会とする。
※大道芸、落語等は存続
※「姫がお忍びでお祭りを見学」という趣旨で姫コンを残すのもアリ

佐倉“江戸”時代まつり 補強案

その他素案:「江戸」要素をもたせない、まったく新しい佐倉時代祭り

佐倉ゆかりの著名人まつり

伊都許利命(古墳)、丈部直大麿(飛鳥・奈良)、平将門(平安)、臼井興胤(鎌倉)、千葉勝胤(室町・戦国)、武田信吉(戦国末期・江戸)、雷電爲右エ門(江戸)、津田梅子(明治)、浅井忠(明治)、モンキーパンチ(昭和・平成)、等、佐倉市にゆかりの著名人数名(3名程度)に焦点をあてる(毎年変更)。

当該著名人とかかわりが深い佐倉市のエリアで、人物紹介とあわせ簡単なイベントを実施し、スタンプラリーとして佐倉市内の回遊性をもたせつつ、エンターテイメントとしても成立させる。

佐倉戦国まつり

佐倉には、「軍神」、「越後の虎」とうたわれた、上杉謙信の攻城戦を退けた臼井城がある。また、当時下総を統治していた佐倉千葉一族の居城も立地していた。

上杉謙信が一夜城を設けた公園から臼井城攻め行列、上杉勢接近を知らせる狼煙と本佐倉城での確認、籠城戦、など佐倉市(場合によっては酒々井町と合同)を面でとらえた戦国まつりが実施可能。

来場モチベーションをどう作るか、毎年開催に耐えうるイベントとしてどう組み立てるか、という課題はあるが、日本広しといえども、上杉謙信を退けた籠城戦を経験したのは臼井城だけである。